

宮澤賢治センターの発展的解散と、 新たな宮澤賢治いわて学センターの発足についてのご報告

岩手大学宮澤賢治センター元代表
大野眞男

平成 18 (2006) 年に発足した岩手大学宮澤賢治センターは、定例の研究会、宮澤賢治記念月例短歌会、賢治と音楽を楽しむ会などの恒常的な活動を積み重ねつつ、岩手大学と連携して「アザリアの花咲くとき 宮澤賢治と学友たち」展 (2009 年)、「関豊太郎と宮澤賢治 賢治が学んだ 72 の石たち」展 (2011 年)、大学出版部協会と共催して「賢治と語り合う 21 世紀の地域創生」(2016 年)、そして賢治の盛岡高等農林卒業百周年には岩手大学農学部附属農業資料館と共催して「賢治卒業 100 年記念・地域創生フォーラム イーハートブの学び舎から」(2018 年)などの行事を開催してまいりました。

そして、平成から令和へと時代は移りました。令和元年、春、新たに岩手大学人文社会科学部のもとに「宮澤賢治いわて学センター」が設置されたことにより、これまでの宮澤賢治センターを発展的に解消することが、令和元年 5 月 29 日開催の総会で議決されました。併せて、旧センターの活動は新センターに継承されることも了承されました。宮澤賢治センターが厳密には任意団体であったのに対して、新たな宮澤賢治いわて学センターは学内組織として正式に位置づいていますので、13 年に及ぶ実績を踏まえた大きな前進といえるでしょう。

令和最初の『賢治学』第 6 輯も、新たな宮澤賢治いわて学センターからの発行となりました。本号の特集は宮澤賢治得業論文百年、すなわち盛岡高等農林学校卒業百年という大きな節目を飾るものとなりました。

新たに設置されたセンターのもと、すでに新しい体制で研究会も始動しています。また、『賢治学』を継承する新たな機関誌発行の動きもすでに始まっています。宮澤賢治を中心に広く「いわて学」を語りあう組織として、今後も広く地域にとって開かれた「広場」として愛されるセンターとなりますように、賢治文学愛好者の皆様には、新センターの活動に引き続きご参加くださり、併せて変わらぬご支援をたまわりますようお願い申し上げます。